

塚田さんの とある1日のスケジュール

- 5:30 起床
- 7:30 出社
- 8:00 朝礼
朝礼で今日の予定を共有したら業務開始
お客様からの電話やメールに対応する
- 12:00 昼食
お弁当を会社に配達してもらいみんなで一緒に食べるが多い
- 13:00 午後の業務スタート
お客様の対応や納品物の発送作業など
- 18:00 事務作業
設計図の確認や顧客管理情報の入力など
- 19:00 退社
定時は17時だが事務作業が残っているので2時間ほど残業
- 20:30 帰宅
夕食をとったら読書をしたり、運動不足のためのストレッチやランニングをしたり
- 23:30 就寝

株式会社塩入製作所

墨田区東駒形2-16-10
TEL 03-3624-3381

昭和40年に設立。金属などに文字や模様を彫り込む「彫刻」を専門に行う製作所からスタート。現在は、彫刻の技術を活かした金属加工に加え、放電加工やNCフライス加工などを使った、微細・精密精度を必要とする加工にも対応。熟練した職人の技術と最新の機材による精度の高い加工に定評がある。平成元年に関連会社「株式会社ソルテック」を設立。金型部品や金型の製造だけでなく、製品の生産までを一貫して行っている。

取材しました！



モノ作りの現場には、いろいろな仕事があることを知りました。何気なく見ているモノにも、関わっている人の苦労があることを実感。



時間がある時は、自分で加工作業をすることもあります。作業している時は無心になれるし、キレイに仕上がるとやっぱうれしい。工程管理の仕事も好きだけど、モノを作るのも好きなんですよね。

受注から納品までのすべてを コントロールする仕事

今は、工程管理の仕事をしています。金型部品といっても、その形状や求められる精度によって、その工程や素材は違います。ですから、お客様から「こういうものを作って欲しい」という依頼を受けたら、工場内にあるどの機械を使えば精度を高められるか、より効率的に加工できるかを判断し、スケジュールを調整。素材の手配から加工担当者への依頼、仕上がった部品の納品までを行います。工程管理は、お客様が求めている形状・精度を実現するために必要な技術や時間を判断し、全体をコントロールしなければなりません。時にはトラブルが起きることもあり、苦労は絶えませんが、無事に納品できた時は、大きな達成感を感じます。

その先にある製品をイメージする

塩入製作所の関連会社では、金型作りからその金型を使った製品の生産まで、一貫して行っています。その関連会社で、金型から製品ができる工程を見ることができたのは、大きな経験でした。自分が見たような部品が、金型に組み込まれてい



工場長代理の村松さんと打ち合わせ。複数の部品を並行して製作しているので、工場全体のスケジュール調整に苦労することもあります。

のを見た時は、本当に感動しましたね(笑)。製品の生産現場を経験したことで、金型の役割について、より深く理解。それまでは「指示通りに仕上げること」だけを考えていましたが、その先にある「製品」をイメージできるようになりました。設計のことも考えるようになりました。今は関連会社で作っている製品の管理もしているのですが、これが本当に難しく、例えば、プラスチック製品を作る場合、加工方法や温度によって素材が縮んでしまうことがあります。設計通りの金型で製品を作っても、お客様が求める仕様にならない時は、加工方法や金型のカチを変えたりなど、試行錯誤の繰り返し。問題を解決する答えが見つからない時は、ツライ。でも、その分、満足できる製品ができた時の喜びも大きいですね。

塚田さんのお仕事とは？ 工程管理

決められた期日に製品が納品できるよう、手順や工程、日程などの生産計画を立て、進行管理を行う仕事。複数の製品を製造している場合は、優先順位によって工程を変更するなど、臨機応変な対応が求められる。お客様発注者と現場製造者をつなぐ役割のため、対応力やコミュニケーション力も必要。製品をスムーズに納品するための要と言える仕事であり、やりとげた時のやりがいも大きい仕事だ。

挑戦して得た喜びが、 次の挑戦への原動力になる

今はお客様から依頼された製品を作っていますが、今後は塩入製作所の「作る技術」を活かし、オリジナル製品を作ってみたいと思っています。僕は、工程管理という仕事を通して、「モノ作りとは違う楽しさを知りましたし、「もっと知りたい」「もっとやりたい」と思うようになりました。何かに挑戦すれば、今まで知らなかった楽しさや、もっと知りたいという思いと出会えると思います。挑戦してみれば、きっと新しい道が開けますよ。



試行錯誤すればするほど、 モノができた時の喜びは大きい

初めて出会ったモノ作りの現場 精密さへのこだわりに驚いた

前職はWeb広告の営業。仕事は楽しかったのですが、次の仕事を考えた時、カタチのないものを売るのではなく、「モノ作りがしてみたい」「手に職をつけたい」と思い、塩入製作所に入社しました。

塩入製作所は、金型の部品を製作している会社。入社してから半年は、実際に現場で部品を作る加工を担当。金型部品を見るのも、機械に触るのもまったくの初めてだったので、つきっきりで「研削」や「磨き」の技術を教えてもらいました。

金型部品のなかには、1000分の1ミリという高い精度が求められるものもあります。例えば「この幅は19.532ミリで」と言われても、ピンとこなくて(笑)。最初はかなりとまどいましたね。



塩入製作所の工場内。手前にあるのは、さまざまな加工を1台で行うことができる数値制御工作機。今、工場内で一番稼働率が高い機械です。

株式会社塩入製作所 塚田 昂平さん(29歳)

千葉県出身。高校卒業後、飲食店員やスポーツインストラクターとして働く。その後、広告代理店でWeb広告の営業を2年経験した後、株式会社塩入製作所に転職。現場での金型部品加工業務を経て、現在は工程管理を担当。